

技術のおたずねにこたえて

【おたずね】シイタケ栽培を副業として始めましたが、露地におけるほだ木の越冬管理方法とその他の留意点についてお知らせください。
(Y市, N生)

【おこたえ】道内の積雪量は地域により大きく異なり、越冬期間中のほだ木の保温性を高めるためには、次のような操作が必要となります。

晩秋最後のほだ木天地返し時(10月下旬~11月上旬)、積雪の多い地方ではほだ木を冬期間の寒波から守るため、できるだけ露出を防ぎ、ヨロイ伏せ、棒積み、井桁^し積みともに積雪下となるよう低く、密に積んで保温性をよくします。

又、よくみかけますが、保温性を重視するあまりほだ木全面を資材類で(ムシロ、シートその他)包囲して越冬させる方を見受けませんが、ムシロは

春先の雨、融雪等で腐敗して害菌附着の原因となり、シート類では完全密閉となります。

雪の少ない地方では、ほだ木個々の保温性を高めるため、低く密に積みかえて(地上60cm以下の棒積みが適当)保護しなければ、春先の菌糸の活動回復が遅れ、ほだ化が促進されません。

翌春気温が上昇してくる時期に(地域により3月下旬~4月下旬)2年目のほだ木育成管理の組み方に変えます。直径9cm以下の細いほだ木は地上高60cm以下のヨロイ伏せ式(坪当たり25~30本)、直径10cm以上の太いほだ木は地上1m以下の井桁積み(坪当たり45~50本)と坪当たりの適正収容本数を厳守し、初年度同様ヨロイ伏せでは2ヵ月に一度、井桁積みでは月一度の天地返しを行って均一なほだ化に努め、秋の自然発生期を迎えます。

(林産試験場 特殊林産科)